

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO

10

October 2018
No.788



マイタウンコンサート(粟島浦村)
子どもから大人まで楽しめるアットホームな演奏会でした。

4~5 特集 地方創生政策の展開と公民館 —地域づくりの拠点化がもたらす「ゆらぎ」—

千葉大学・日本体育大学等／非常勤講師 越村 康英

CONTENTS

- 2………… トピックス 「にいがた生涯学習県民フォーラム2018」開催される
- 3………… 視 点 公民館は「生活の中の楽しみ」の拠点 中越教育事務所 社会教育課長 大淵 英一
ひ ろ ば 「刈羽村文化協会の現状と課題」 刈羽村文化協会代表 中澤 洋一
掲 示 板 「平成30年度関東甲信越静公民館連絡協議会 第2回理事会・研修会」
- 6………… 実践記録シリーズ 「声優体験講座」 見附市中央公民館
- 7………… サークル交流 「もっと知りたい湯沢」(湯沢町) / 「ことばのキャッチボール」(津南町)
素 顔 拝 見 吉田 幹康さん(三条市) / 小林 勇斗さん(妙高市)
- 8………… お元気ですか 「練習したら試合」「創作したら展示」 上越市・柳澤 篤さん
ネットワーク 「中越地区公民館職員研修会」

TOPICS

「にいがた生涯学習フォーラム2018」開催される

「にいがた生涯学習フォーラム2018」が9月14日(金)、15日(土)に新潟県立生涯学習推進センター(新潟市中央区女池南)で開催されました。約1000人の方々が来場されました。ホールだけでなく各ブースにも多くの参加者の皆さんで賑わいました。



とっぴーときっぴーも参加しました

○1日目

〈第1部〉

1 基調講演

テーマ「生涯学び活躍できる」

循環型生涯学習

講師 長澤 成次さん

(千葉大名大学教授)

2 パネルディスカッション

テーマ「学びから活躍へ」

実践する人々

○コーディネーター

丸田 秋男さん

(新潟医療福祉大学副学長)

○アドバイザー

長澤 成次さん

(千葉大名大学教授)

○パネリスト

野澤 朗さん

(上越市教育委員会教育長)

高桑紀美江さん

(新潟県生涯学習協会副会長)

波邊 優子さん

(NPO法人希榮々(きらら)理事長)

〈第2部〉

1 いきいき県民カレッジ奨励賞(学長賞)表彰式

受賞者総数は34名で当日参加者は7名でした。

2 記念講演会

テーマ「幸せの種を蒔こう。地元にある宝探し。」

講師 大桃美代子さん

(タレント)

講師 佐藤 和彦さん

(新潟県LPガス協会)

○2日目

いつでも どこでも だれでも 防災く防災体験フェスタ

外、屋内で参加13団体が様々な活動で紹介しました。

◆防災ミーティング 「命を守るために 大切なこと」

①自助(自分自身で守る)

②共助(家庭、企業や地域コミュニティで助け合う)

③公助(行政による救助・支援)

お話がありました。

具体例が多く紹介され、今後の参考になりました。

○コーディネーター

雲尾 周さん

(新潟大学)

○パネリスト

佐藤 和彦さん

(新潟県LPガス協会)



田原 理さん

(新潟県公民館連合会)

齋藤 敏郎さん

(新潟県健康少年団連合会)

中野 充さん

(新潟青陵大学ボランティアセンター)

◆防災講演会 テーマ「災害と地域づくり」

「イザ！カエル」

講師 永田 宏和さん

(NPO法人)

プラス・アーツ理事長)



◆防災体験フェスタに参加いただいたその他の団体の紹介

○簡単ゴムで鉄砲作りと的あて

(生涯学習推進センター)

○緊急時の食事づくり

学習相談ボランティア)

○モンキーブリッジ

(新潟県婦人連盟)

○ダンボールシエルター、救助

(日本ボイスカウト新潟連盟)

(新潟県LPガス協会)

に役立つロープワーク

救助ゲーム、緊急時のファーストエイド

(新潟県健康少年団連合会)

日本ボイスカウト新潟連盟)

○積み木あそび

(新潟県子ども会育成連合会)

○防災フラフト、ロープの結び方

(ガールスカウト新潟県連盟)

○学習成果品展示 「会話する

ロボット」

県立柏崎工業高校



柏崎工業高校電気部 会話するロボット

○学習成果品展示・即売

県立江南高等特別支援学校

県立新発田農業高等学校

県立新発田農業高等学校



県立江南高等特別支援学校 学習成果品展示・即売 新潟県子ども会育成連合会 積み木あそび



刈羽村文化協会の 現状と課題

刈羽村文化協会代表
中澤 洋一



私達刈羽村文化協会は、各種文化団体の連携協調と、芸術文化の振興に寄与するという目的で、平成九年に設立されました。現在15団体、約200名に近い会員の皆さんが日々活動をしており、文化協会が設立されて20年以上の歳月が経っておりますが、今抱えている問題は会員数の減少と高齢化です。高齢化と共に会員が減り、サークルの運営が困難になりました、というようなサークル

が今までにいくつもあります。どうすれば会員を増やすことが出来るのか、サークル活動を活性化させるには何が必要なのか、今、文化協会全体の現状を分析し、サークル員の高齢化と世代的継承を真剣に考える時期に来ているのではないかと思います。今年恒例の刈羽村文化祭を11月3日と4日に実施する予定で準備を進めている所です。この文化祭の目的の中に、地域の連携、親睦を深め刈羽村全体の発展

を目指すがあります。文化祭は村民の皆さんから芸術文化を鑑賞してもらつと共に、村民の皆さんの交流やふれあいの場としての大切な役割を担っているのではないかと思います。交流やふれ合いの中から村が元気になる発展していくものと思えます。この文化祭を通して文化協会の発展に繋げていきたいと思っております。

視点



中越教育事務所 社会教育課長
大淵 英一

公民館は「生活の中の楽しみ」の拠点

私は、在住する地区の公民館分館事業「賽の神、地区民運動会、夏祭り、毎月発行の公民館新聞など」に子どもの頃から親しみ、今も楽しんでます。子どもからお年寄りまでの多世代の方々と交流し、新たな発見や喜びも共有できます。正に身近な楽しみの宝庫で、ありがたいと思っております。

さて、「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて(論点の整理) 平成29年3月28日」

「学び」を「地域課題解決学習」として捉え、社会教育の概念に明確に位置付け、公民館等においてその推進を図ることにより、住民の主体的参画による持続可能な地域づくりに貢献することが求められる。」として、①さらに留意すべき点として①住民の自主性・自発性の尊重、②住民の主体的参画を促進する楽しい仕掛けづくりの必要性「楽しさなくして参加なし」の視点を踏まえた取組が期待されること、③子ども・若者の参画と多世代交流の重要性」が記されています。

小千谷市の「わかとち楽校」や三条市の「きっかけの1歩事業」「下田郷のいしづみ座談会」に見られるように、各市町村は「地域課題解決学習」や思い切った発想の転換にチャレンジしながら、素晴らしい取組を次々に打ち出しています。課題はたくさんありますが、住民にとつての「楽しみの拠点」として、今後も公民館事業が推進されることを期待します。

掲示板 HOT NEWS

平成30年度関東甲信越静公民館連絡協議会 第2回理事会・研修会

期日 平成30年8月24日(金)
会場 東京八重洲ホール
関東甲信越静公民館連絡協議会第2回理事会・研修会に浅間会長が出席しました。
内容
○理事会
(1)第40回全国公民館研究集会東京大会について(全公連)
(2)第59回関東甲信越静公民館研究大会につ

いて(栃木県)
・全国大会の参加依頼がありました。また、来年度関東ブロック研究大会を開催する栃木県から開催要項が提案されました。新潟県は地域文化伝承の分科会が担当となる予定です。
○研修会
「地域の未来を拓く創造拠点—公民館の可能性」～若狭公民館の実践を通して～

那覇市若狭公民館 館長 宮城 潤 氏
・文部科学省「第70回優良公民館表彰」で最優秀館に輝いた若狭公民館のユニークでかつ創造的なプログラムの紹介がありました。



特集

地方創生政策の展開と公民館

—地域づくりの拠点化がもたらす「ゆらぎ」—



越村 康英
(千葉大学・日本体育
 大学等／非常勤講師)

◆「近所トラブル解決物語」

『ビビコレー公民館のジョーさん』（全3巻・2016年）かたおかみさお著／双葉社」という漫画をご存知だろうか。

郊外の町にある、あまり活気のない公民館。その臨時職員に採用されたジョーさん（大野城灯）が、公民館に新しい風を吹き込んでいく。「妊婦さんの悩み」「学童ママからのクレーム」「町内会に入るか、入らないか問題」など、持ち込まれる身近な課題を、ジョーさんの発想力と行動力で解決に導いていく「近所トラブル解決物語」だ。

本作品では、魅力的なキャラクターのジョーさんが前面に出ており、課題解決に向けて学び合う住民の姿は丹念に描かれていない。そこに、やや物足りなさを感じるものの、公民館を舞台に、公民館職員を主人公として物語を展開していくような漫画は、これまで目にすることがなく、新鮮でおもしろい。

著者は、何から着想を得て、どんな想いで公民館に焦点を当てたのだろうか。それは、本人に尋ねてみる

ければ分からないが、本作品の背景には、戦後約70年をかけて共有されてきた「地域の拠り所」としての公民館像と、「これからもそうあってほしい」という素朴な期待」があるように思えてならない。

◆地方創生政策の展開と公民館

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成29年推計／出生中位推計）によれば、2065年には総人口が8,808万人にまで減少し、0-14歳の年少人口は898万人（約1割）、15-64歳の生産年齢人口は4,529万人（約5割）、65歳以上の老年人口は3,381万人（約4割）になるとの試算が示されている。このように少子高齢化・人口減少が加速度的に進行していくなかで、誰もが安心して暮らし続けられるようにするためには、どうすればよいのか。極めて切実な課題となっている。

2014年9月、第二次安倍改造内閣が発足すると、危機感に駆られたように、政府一体の地方創生政策が動き出す。そして、①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決の3つを基本的視点として様々な取り組みが進められていく。

「地域の拠り所」としての社会的イメージを形成しながら広く地域に根付いてきた公民館が、地方創生政策の影響を受けることは、ある意味、必然である。ここ数年で、公民館には、より積極的に地域課題の解

決へ寄り、地域づくりの拠点としての性格を明確に打ち出すことが、強く期待されるようになった。それは、漫画『ビビコレー』からも感じ取れるような公民館への「素朴な期待」を超えて、公民館に大きな変化を与えうる政策的要請となっている。

◆地域課題解決学習／学びのオーガナイザー

文部科学省では「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」を立ち上げ、2017年3月、同会議より「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて（論点の整理）」と題する文書が公表されている。

ここでは、「地域住民が地域コミュニティの将来像や在り方を共有し、その実現のために解決すべき地域課題とその対応について学習し、その成果を地域づくりの実践につなげる『学び』を『地域課題解決学習』として捉え、社会教育の概念に明確に位置付け、公民館等においてその推進を図る」という考えが示されている。そして、「『地域課題解決学習』を推進していく上では、住民の中に入り込み、住民やNPO、大学・企業等の様々な主体を結び付け、地域の資源や各主体が有する強みを活かしながら、地域課題に応じて『学び』や『実践』の場をアレンジすることにより地域課題を『学び』に練り上げ、課題解決につなげていく人材」（学びのオーガナイザー）が必要であると

こうした議論は、公民館への期待の表れでもあるが、特に新しいことではない。「地域課題解決学習」として打ち出されているような「学び」は、これまでも公民館で豊かに展開され、公民館職員は「学びのオーガナイザー」のような役割を担ってきたはずである。しかし一方で、住民の生活や地域と切り離された公民館事業が少なくないことも事実である。上記の議論は、このような現状に対して変革を促しているとも言えよう。

◆公民館の首長部局移管

「地域づくりの推進」を理由に、近年公民館が、首長部局のコミュニケーション政策に組み込まれるケースが増えている。実態は様々で、公民館条例を残して首長部局が補助執行する場合もあれば、公民館条例を廃止し、「コミュニケーション施設」に切り替えて首長部局が所管する場合もある。既に、こうした状況が拡大しているなかで、公民館の首長部局移管に拍車をかけるような動きがある。

2018年2月、中央教育審議会生涯学習分科会の下に「公立社会教育施設の所管の在り方等に関するワーキンググループ」が設置され、「公立社会教育施設について、地方公共団体の判断で条例により地方公共団体の長が所管することを可能とする」ということについての検討が始まった。議論は急ピッチで進められ、7月には、生涯学習分科会としての「審議のまとめ」が出来上がっている。

結論は、「社会教育に関する事務については今後とも教育委員会が所管することを基本とすべきであるが、地方の実情等を踏まえ、より効果的と判断される場合には、地方公共団体の判断により長が公立社会教育施設を所管できる特例を設けることについて、

社会教育の適切な実施の確保に関する制度的担保が行われることを条件に、可とすべきと考える。」というものである。

こうした動きの根底にあるのは、「公民館などの社会教育施設を地域づくりの拠点として機能させるには、他の行政分野(コミュニケーション行政等)と一体的に取り組みを進めた方が効果的である」との認識である。確かに、他の行政分野との連携を深めることは必須だが、この認識自体を問い直してみることも必要ではないか。

「審議のまとめ」にも示されているように、公民館などの教育機関は、首長から独立した教育委員会行政委員会が所管するのが原則である。その意義は、「教育における政治的中立」を守ることにあり、それは「学習の自由」を尊重することに他ならない。主権者である住民が自治的に地域づくりを進めていく上で、「学習の自由」は不可欠な要素である。そのことを無職・軽視して首長部局への移管を進めていくことは、あまりに危険でないだろうか。

◆地域運営組織と公民館

「地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する」仕組みとして、地域運営組織が注目されている。総務省が推奨していることもあり、既に全国で4,177組織が立ち上げられている(2017年度・総務省調査)。

地域運営組織には、地域課題を共有して解決方策を検討する「協議機能」と、解決方策に沿って実際に活動する「実行機能」が求められるが、前者は、先に触れた「地域課題解決学習」そのものでもあり、公民館とも親和性が高い。実際、公民館が地域運営組織の事

務局機能を担うケース、地域運営組織が公民館の指定管理者となるケースなど様々な状況が生まれている。また、両者が独立しながらも、協働して「地域課題解決学習」の機会(公民館事業)をつくり、その成果を地域運営組織の実践に反映させていくような関係も考えられる。

いずれにせよ、両者の関係は、今後いっそう強化されていくものと思われる。そして、地域的文脈において、両者の関係がさらに鋭く問われていくことになるだろう。

◆「ゆらぎ」のなかから可能性を探る

公民館が地域づくりと関わる機関であることは、戦後初期の公民館構想に立ち返ってみても明らかである。しかし、ここまで見てきたように、地方創生政策とも連動し、公民館を地域づくりの拠点として先鋭的に再定位しようとする流れのなかで、従来の公民館制度に「ゆらぎ」が生じている。

近々、中央教育審議会より「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策」について答申が示されるはずだが、その内容なども十分に吟味して、この「ゆらぎ」のなかから公民館の本質を見極め、新たな可能性を探っていきたい。

漫画『ピピロ』の主人公・ジョーさんのように、住民と向き合い、地域をフィールドに日々奮闘している公民館職員は、新潟県内はもとより全国にたくさんいる。その存在が公民館の希望だ。「ゆらぎ」の渦中でも、住民の生活や地域を丁寧に見つめることを忘れず、その現実根ざした「学び」を支え続けていくことが肝心である。こうした努力の蓄積が、公民館の輪郭を鮮明にし、地域のなかで本当に必要とされる公民館を創造していくのではないか。

247

声優体験講座

見附市中央公民館

実践
記録
シリーズ

見附市では、中学生・高校生を対象に夏休み期間の2日間、夕方4時から7時に「声優体験講座」を開催しています。平成30年度は、中学生9人高校生8人の参加がありました。

家族や友達に上手く伝える話し方やコミュニケーションの仕方を、個々に気づいてもらえたらと企画しました。

講座の様子

講師は、見附市出身で活躍中の声優さんをお願いしました。声優さんの仕事の内容や活躍の体験談などを交えながら、終始笑顔で和やかな講座となりました。

1日目は、台本を片手に話し方の練習。

「声優は、どんな役柄の登場人物にもなれる。」という講師の一言で、参加者は熱心に役柄ごとの言い回しや感情表現の仕方を教わりました。



2日目は、公民館の視聴覚室でアフレコ体験と収録。

中央公民館の視聴覚室で開催しました。大きなスクリーンのマンガ映像を見ながら、役柄を決め、台本を片手にマイクの前で、アフレコ体験と収録をしました。

アフレコ時のルールや声出しのタイミングも教わり、みんな緊張しながらも一生懸命取り組み、収録を無事終了しました。

収録した作品は、後日映像と共に見附市公式フェイスブックに掲載され、参加者全員にDVDにして、プレゼントしました。

講座終了後は…

実践体験として、市開催の行事の中で、司会もしてもらっています。



講座開催において地域の協力

見附市公式フェイスブックに見附マンガを投稿中の漫画家さんと、同じく映像投稿中で専門家の方に、マンガを提供してもらい、映像化し、テキスト・台本の作成もお願いしました。

今後について

市で開催している行事や地域で活躍している人達を中学生・高校生に紹介しつつ、地域に関心を持ち、参加してもらえるような内容で企画していきたいと思っています。

見附市中央公民館 西川 智子





**もっと知りたい湯沢
ふるさと湯沢の歴史を語る会**

「湯沢温泉」はいつ頃発見されて、どんな発展をしたのだろうか？湯沢町の土樽地区には「南雲さん」という苗字が多いが、そのルーツはどうなっているのだろうか？三国街道はいつ頃開かれて、どのような移り変わりがあったのだろうか？皆さんはご自分が住んでいる町のこんな話題に興味がありませんか？自分の住んでいる町にはまだまだ知りたい歴史上の話題がたくさんあるでしょう。このような話題を一緒に研究して討論したり、町で発見された古文書を解読したり町内外の文化財や史跡を見学したりするサークルが私たちの「ふるさと湯沢の歴史を語る会」です。2ヶ月に1回湯沢町公民館ほか見学地先にて活動しており、毎回会員同士昔ばなしに花を咲かせて楽しんでおります。



す。興味のある方なら老若男女どなたでも参加できます。これまでの会員は長老然とした男性が多かったのですが、最近は歴史に興味のあるご婦人、若者も続々入会しており、湯沢町の歴史とともに学び知り、語り継ぐ場のひとつになっていっていると思います。

湯沢町ふるさと湯沢の歴史を語る会
代表 南雲 良正 記

ことばのキャッチボール

国際交流「ことばのキャッチボール」

ことばのキャッチボールは町内在住の外国出身の方々が無強する日本語教室のサークルです。平成8年5月に立ち上がり、今年で22年目となります。4月～12月は毎週水曜日と木曜日の2回、1月～3月は毎週木曜日の1回実施をしており、簡単な

日本語の基礎から難しい日本語まで一人一人に合わせた勉強と日本の生活におけるアドバイスや悩み相談も行っています。参加者の皆さんは出身地が異なり様々な国の方とも交流ができるのもこのサークルの魅力となっています。机に座っての勉強だけでなく、外で日本の生活習慣に触れるイベントや視察なども行っています。

津南町の友好交流都市である埼玉県狭山市の国際交流学級との交流会も行い、津南町と狭山市のそれぞれを会場に交流会を実施していました。

現在はこのサークルで勉強された方が講師となり、自国の文化を伝えるクラフト体験講座などを独自で開催したり、公民館事業にもご協力いただきながら日本の生活を楽しくしています。



津南町「ことばのキャッチボール」
津南町公民館 根津 記

素顔拝見

三条市中央公民館

主事 吉田 幹康さん



昨年4月から三条市中央公民館(生涯学習課兼務)に配属になり、今年で2年目になります吉田幹康です。中央公民館事業としては、入門教室・文化入門講座、生涯学習推進事業としては、成人式や第1回三条市長杯争奪ジュニア将棋大会を主に担当しております。

入門教室・文化入門講座や将棋イベントの事務だけでなく、公民館の施設管理など様々な業務を行っています。

採用されて初の配属先が中央公民館であり、まだ配属されて1年と半年ですが公民館事業などの多くのイベントに携わってきたことでたくさんの市民の方と接し、話を聞くことで様々なことを学ぶことができました。また、これからの時期は多くのイベントが重なっており忙しくなってきますが、持ち前の若さと体力で乗り切っていきたいと思っております。

これからも、職場の先輩方から教えてもらったことをどんどん吸収し、今以上に信頼してもらえるよう、さらに成長していきたいと思っております。

妙高市公民館(妙高市教育委員会生涯学習課)

主事補 小林 勇斗さん



小林勇斗さんは、本年4月に課内異動により生涯学習推進係に配属された若手のホープです。

小林さんが担当する「妙高はなうまカレッジ『まなびの杜』」は、市民の皆さんに広く「まなび」の機会を提供することを目的とした生涯学習講座で、毎年多くの受講生を集め、好評をいただいています。

今年度は、開講に合わせてオープンカレッジとして菊地幸夫弁護士を講師に迎えスタートしました。

各種講座は、土・日曜日の開催も多いですが、バイクやカメラなど多彩な趣味を楽しみながら、オンとオフをうまく切り替えて、持ち前のバイタリティーで何事にも一生懸命取り組んで行って欲しいと思っております。

そして、多くの市民に喜ばれ、頼りにされる職員になることを期待しています。

(妙高市公民館(妙高市教育委員会生涯学習課) 山口 修 記)

ネットワーク

中越地区公民館職員研修会

主題 「学ぶ・つなぐ・創る」

拠点としての公民館の役割と地域課題の解決にむけて

期日 平成30年9月11日(火)

会場 魚沼市中央公民館

講演 研修テーマ 実践コミュニケーション塾

講師 小林富貴子 様 (一般財団法人教育研修コーチング)

協合理事長



開会のあいさつ 恋塚忠男会長



演習の様子(2人グループでコミュニケーションの取り方について)

・研修は、講話にあわせて数回のグループワーク演習でコミュニケーション技術で体験するといったものでした。中越地区公民館職

員の61名が参加し、熱心に研修に取り組んでいました。

お元気ですか

「練習したら試合」「創作したら展示」

柳澤 篤 (上越市立八千浦地区公民館利用者、公民館事業講師)



「何にでも興味を抱く楽道家」これは私の血液型からくる特徴のようで、現役の頃よりいろいろと面白いことを見つけては楽しんでいました。その中でも竹細工、木工、ペーパークラフト等は、時々当地域公民館のフロンティアに展示していただくことを励みに、制作して

きました。そんな折、公民館より工作教室の講師のお話をいただき、子

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後にも元気に活動している様子を紹介します。コーナーです。

ども向けに指導する機会を持ちました。中でも夏休み工作教室では、時間一杯に取り組み、完成した時のうれしそうな顔、冬休みの凧作りでは、歓声を上げ、走りながら凧揚げをする姿が印象に残っています。ものづくりの達成感を子ども頃から味わうことの大切さを改めて実感した次第です。

一方、公民館を利用したサークルでの創作活動も盛んな地域

であり、地元での発表の場を作ろうと、8年前、各方面に相談しながら文化展を立ち上げました。オープニング演奏会には小学校、中学校の金管バンドが花を添えて、地域の皆さんへ成果を披露する良い発表の場になっていると思います。色々な相乗効果もあり、現在、来場者数670名、出品点数450点と大きなイベントに育ちました。「練習したら試合」をすることで「創作したら展示」をすることを励みとし、さらなる発展を願うところです。

100年先の日本のために

豊かな水を育み国土を守る森林は、「緑の社会資本」であり、地球温暖化の防止にも大きな役割を果たしています。私たちは、その恩恵を後世の人々が享受できるよう、長期的視点に立った森林づくりを推進しています。

新潟県市町村林政振興協議会 会長(糸魚川市長) 米田 徹

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内 TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

編集後記

朝晩めっきり涼しくなってきました。各地区では、学習の成果の発表や研修会が行われる時期になっているのではないのでしょうか。先日、取材で中越地区公民館職員研修会に参加しました。講義では学ぶ事や気付きが多くありました。特によい声かけの仕方について「ネガティブよ

リポジティブな会話を心がけること」というお話がとても心に残りました。「汚すな」でなく「きれいに使って」「走るな」でなく「ゆっくり歩こう」と同じことなのに感じ方が違います。改めて日本語はむずかしいと思いつつ、ポジティブな会話を心がけることの大切さを学びました。(広瀬)